

また、このたび旧今井小学校にまちづくり協議会と公民館が一緒に入ることは、公共施設集約のよいきっかけとなり、さらに人材不足により、まちづくり協議会と公民館の担い手を兼務する方が増えている状況にあることから、一緒に効率よく活動することで地域の方の負担軽減につながるものとする。

市内全域において、まちづくり協議会と公民館が一緒になり、効率的に活動できる環境を整えること。

障がい者等就労支援事業について



新規事業でもあり、事業の目的と中身をしっかりと精査し、障害のある方の就労支援の充実と活性化を図りながら、障害者雇用がより一層促進され、効果がわかる形で事業を進めること。

道路改良事業について

道路改良に関する予算が全般的に減少してきているが、社会基盤の整備については早急な対応が必要である。限られた予算ではあるが、地域住民の安全を考えた予算配分を行うとともに業務の遂行に必要な人の確保に努めること。

マンホールトイレ用備品購入事業について

マンホールトイレ用備品の整備ももちろん必要であるが、昨今、大規模災害発生時に威力を発揮する移動設置型トイレ「トイレトレーラー」に全国の自治体が熱い視線を注いでいる。

災害時はもちろんのこと、平時はイベントなどでの活用も見込まれることから、本市においてもふるさと納税やクラウドファンディングなどの活用によりトイレトレーラーの導入を行い、併せて、災害時には、広域でトイレトレーラーによる助け合いができるネットワークを構築すること。

カブトガニ博物館特別展等開催事業について



道の駅笠岡ベイファームの来場者をいかに市内中心部へ取り込むかということが課題になっている。

カブトガニ博物館は、カブトガニをテーマにした世界唯一の博物館であることをもっと全面に押し出し、道の駅笠岡ベイファームから市内中心部への誘導も兼ねて効果的にPRを行い、来館者の増加につなげること。

また、カブトガニ博物館がこの先展開していくビジョンについて、しっかりと市民の意見を聞きながらカブトガニ博物館が担う役割や方向性を明確にすること。

水道事業について

水道事業において、インフラ整備を円滑に進めるためには、技術職員の確保が欠かせず、大きな課題となっている。継続的な技術職員の確保と育成に努め、将来にわたって、市民へ安全で安心な水道水を提供すること。